

コスト構造改善プログラム フォローアップの効率化



総合技術政策研究センター

建設システム課 課長 佐近 裕之 主任研究官 駒田 達広 部外研究員 中島 章

(キーワード) コスト構造改善、フォローアップ、コスト改善施策統一メニュー

1. 研究の経緯・目的

国土交通省では2008年度に、これまでのコスト削減の取り組みに加え、行き過ぎたコスト削減は品質の低下を招く恐れもありコストと品質の両面を重視する取り組みとした「国土交通省公共事業コスト構造改善プログラム」（2008年度～2012年度）を策定し、2008年度から5年間で、15%（2007年度比）の総合コスト改善を目標とした「総合的なコスト構造改善」に取り組んでいる。

2008年度の総合コスト改善率は、国土交通省・関係機構等合計で、3.7%の低減となった。物価変動等を含めた改善率は0.9%の低減となった。

本研究では、プログラムの目標達成支援のため、とりまとめ作業の負担軽減に繋がるフォローアップ作業の効率化に向けた検討を行った。

具体的施策内容(自由記入)を整理・分類した事例(一部抜粋)

自由記入された具体的施策内容	統合した内容
コンクリート二次製品の使用	コンクリート二次製品の活用
コンクリート構造物のプレキャスト化の推進	
プレキャスト製品の活用(ボックスカルバート)	
建設副産物のリサイクル活用(護岸ブロック)	現地発生材の再利用
現地発生砕石の再利用	
現地発生材の有効利用	路床安定処理工法の採用
比較的支持力の低い路床に対して路床安定処理を実施し舗装厚を薄くした	
路床安定処理	
改良工事で新技術を活用(パワーブレンダー工法)	パワーブレンダー工法の採用
スラリー機材工からパワーブレンダー工法に変更しコスト削減	
パワーブレンダー工法による地盤改良により従来工法に比べコスト削減	

整理・統合 ↓

主要な施策をメニュー化(コスト改善施策統一メニューより一部抜粋)

メニュー	解説
コンクリート二次製品の活用	既製品のプレキャスト製品(標準化された函渠、排水溝、集水溝、管渠、側溝、擁壁を除く)を用いることで、省力化、工期短縮により、コスト構造の改善を図る。
現地発生材の再利用	現場で発生した護岸ブロック等の再利用によりコスト構造改善を図る
路床安定処理の採用	比較的支持力の低い路床上に舗装する場合、路床安定処理により、CBR=6~8程度まで路床改良を行い、支持力を高め舗装厚を薄くする。
パワーブレンダー工法の採用	パワーブレンダー工法を採用することにより高品質で低コストな地盤改良を行いコスト構造の改善を図る。

図1 フォローアップ作業簡素化の例

表1 2008年度の成果(総合コスト改善率)

施策項目	改善率
1. 工事コスト構造の改善による効果	
1) 計画・設計段階の見直し	
① 設計基準類の見直し	0.44%
② 規格の見直し	0.47%
③ 設計VE等の活用	0.55%
2) 施工段階の見直し	
④ 事業関連等の推進	0.46%
⑤ 調達における工夫	1.21%
2. ライフサイクルコスト構造の改善による効果	
(1) ライフサイクルコスト構造の改善による効果	0.43%
3. 社会的コスト構造の改善による効果	
(1) 事業便益の早期発現による効果	0.07%
(2) 工事に伴う環境負荷低減による効果	0.005%
(3) 工事に伴う交通規制の改善による効果	0.02%
合計	3.65%

2. フォローアップ作業の効率化

従来のフォローアップ作業では、具体的施策の記入内容は、種々の名称が混在していたが、これを分類・整理して、コスト構造改善施策の「統一メニュー」を作成し、フォローアップ作業の簡素化・作業の負担軽減を図った。

3. 基準年次における標準化施策のリストアップ

コスト構造改善の実績は、2007年度における標準的な公共事業のコストを基準として算出することとしている。基準年度では、広く普及し標準的となったコスト構造改善施策を、標準化施策メニューとしてリストアップし、また、記入票から削除して選択入力はできないこととして、フォローアップ作業での計上ミス・負担軽減を図った。

今後は、簡便なコスト改善額の算出手法の検討及び新たな評価項目である長寿命化によるライフサイクルコスト構造の改善、社会的コスト構造の改善など、工夫の余地の高い施策での効果の計測の効率化に取り組んでいく。

【参考文献】国土交通省大臣技術調査課 公共事業のコスト構造改善(平成20年度～24年度)

http://www.mlit.go.jp/tec/cost/cost_2.html